

教科名(科目名)	国語科(現代文)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	----------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	評論(生徒のグループ活動を取り入れた授業) 現代文B(1)ア文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。(2)イ論理的な文章
-----------------	---

### 1 単元の目標

- ・課題に応じて、叙述に即した的確な理解を主体的に行い、適切に表現する能力を高める。
- ・相手の考えの妥当性を判断しながら聞き、進行の仕方や記録の取り方などを工夫して話し合うことによって、理解を深める態度を育てる。

### 2 言語活動の展開パターン

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (数分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が提示した課題に従って、個々で答案を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の明示は、できるだけ毎回行い、生徒に意識付けさせる。</li> <li>・個々の解答は文章化させておく。</li> </ul>
第二次 (3~15分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5~7人のグループに分かれ、各自が作った答案を説明し合い、意見交換や質問をする。</li> <li>・グループで一つの答案を作る(グループ内で話し合ったことをまとめる)。</li> <li>・発表者は、グループ内で発表の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の際は、役割分担をする(進行・記録・発表など)。自発的に役割を選ぶなど、生徒に決めさせるのが理想だが、状況に応じて、教師が指名してもよい。別の課題に取り組む際は、役割変更をさせる。</li> <li>・各作業には、制限時間を設ける。慣れるに従って短くしていく。</li> </ul>
第三次 (10~20分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に発表する。</li> <li>・質疑応答をする。</li> <li>・教師が、発表の比較・分析、まとめ等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表という形を取らずに、各班でまとめた答案を提出させ、教師による点検の後、次の時間にプリント等を利用し、各答案の比較や分析を行ってもよい。</li> </ul>

### 3 解説

## ○PISA型学力の育成について

課題に即応した読む能力の育成（指導のねらい ア(ウ)）

## ○設定テーマと授業実践との関わりについて

本校の「ことばの力育成プロジェクト」の研究課題は、論理的な提言を書く力の育成と、言語活動の基盤となる実践的な読解力・表現力の育成である。前者は、主に別項で述べるスピーチに関する活動で育成を図る。本活動は、後者を意識した活動であり、読解力とともに表現力の育成を図ることを目的とするという性格上、主に現代文の教材を使って活動した。

言語活動の充実を重視した授業と言え、日常の教科書を使った読解を中心とした授業ではなく、特別な教材を使って表現領域の授業を展開しなければならない。ついこのように、身構えて考えてしまう。例えば、スピーチ、討論、小論文などである。しかし、それはかなりの時間を要するものである。別項で述べるスピーチに関する取組を例に取ってみても、1学級40人の発表だけで、4時間以上を費やすことになる。準備・計画・まとめの時間を考慮すると、それ以上の時間が必要である。もちろん、スピーチや小論文などの取組も大切であるが、もっと手軽に、もっと短い時間で、もっと日常的に、生徒が受け身になってしまう授業、つまり、教師の説明を通して生徒に文章の理解を促す型の授業の改善を図りたい。この発想を出発点として、評論や小説といった、教科書掲載の教材を使った授業の中で、できることを模索してみた。

言語活動の充実には、生徒が自己の意見を説明したり、他者の意見を聞いて判断したり、グループの意見をまとめて発表したりすることが大切であると考え、グループによる活動を取り入れることにした。

実際に生徒に示した課題については、後述のとおり、通常読解を中心とした授業の質問と大差はない。しかし、グループで考えさせるだけで、ずいぶん変わるのではないか。同じ質問でも、個人を指名して答えさせると、自分では考えずに他の生徒や教師が正答を出すのを待つ生徒や、十分考えずに答らしきものを出して満足してしまう生徒が出てくる。それが、6人前後のグループによる活動を取り入れると、自己の意見を示すことを迫られやすくなり、いい加減な答は他からの指摘を受けることになる。また、グループ単位で発表させるので、対抗意識も出てくる。これが、真剣な思考を生むのである。

たしかに、問題点もある。例えば、スピーチで費やす時間に比べれば短いとはいえ、時間がかかる。個人に答えさせる形式だと、数分で済む質問に、数10分、場合によっては1時間も費やしてしまうのである。しかし、これは、慣れることである程度改善できるだろう。

何も難しく考えることはない。次の授業から、いつもの質問を、グループで検討させ、グループ単位で答えさせる。これが、重要な一歩なのではないか。

## ○授業の具体的展開

教科書掲載の教材を使った通常授業での言語活動の第1段階として、第2学年の1学期に、現代文評論教材を中心に活動した。

日常的な授業の一部として実施するので、長くても1時間(50分)内に収めるようにする。

ただし、各班の代表者が発表するという形を採らず、まとめた答案プリントなどに記入・提出させた場合は、教師が目を通したうえで、次時に比較・分析やまとめを行う。

グループ内での作業は、各作業毎に時間設定をする。例えば、まとめるまでに10分、練習に2分、発表は各班1分30秒といった具合である。最初は、まとめるまでにかなりの時間を要するが、徐々に減らしていく。やがて、15分～20分程度で1つの課題ができるようになる。また、ある程度慣れたら、1時間の中で、複数の課題を与えていく。前の答が後の課題のヒントになるなど、それぞれの課題が関連している連続課題が理想である。本年度は、この活動の第2段階として、夏目漱石著「こころ」を使って連続課題の取組を実践した（3学期）。

問題は、できるだけ文章全体の理解を促す内容にする。また、本文中の記述を根拠にできるものを選ぶ。生徒に発表させる際も、根拠を明示させ、テキスト中の記述に基づく思考・判断がなされているかを確認する。慣れないうちは、現代文では重要な段落を要約させる問題、古典ではストーリーを要約させるような問題でもよい。

以下は、本年度、第2学年を対象に行った活動例である。

【例1 中島敦著「山月記」（所収 東京書籍『精選現代文』）】2年1学期

- ① 第一段落を読んで、あらすじを簡潔に説明せよ。（要約）
- ② 第五段落「なぜこんな運命になったか分からぬと、先刻は言ったが、しかし、考えようによれば、思いあたるものが全然ないでもない。」とあるが、この段落で李徴が述べている「虎になった理由」はどのようなものか、説明せよ。

【例2 清岡卓行著「ミロのヴィーナス」（所収 東京書籍『精選現代文』）】2年1学期  
・ 「特殊から普遍への巧まざる跳躍」（第一段落）とは、「ミロのヴィーナス」のどのような変化を指しているか。「特殊」と「普遍」の指す内容を明確にして説明せよ。（文中の言い換えの表現を押さえて、抽象的表現を詳述する）

- 【例3 中村佳子著「環境問題への視点」（所収 東京書籍『精選現代文』）】2年1学期
- ① 作者の意見と、それに対立する論（一般論）を明らかにして、第一段落を要約せよ。
  - ② 「自分の中に入っている生命の歴史をひもとくこと」（第二段落）とはどのようなことの比喩か、説明せよ。（難解な比喩の詳述。根拠は、以降の段落も押さえたほうが分かりやすい。）

【例4 漢文「先づ隗徙り始めよ】】2年1学期

- ・ 漢文「先づ隗徙り始めよ」の口語訳を作る。使役・抑揚などの使われている句法は、あらかじめ指摘しておく。

【例5 夏目漱石著「こころ」（所収 東京書籍『精選現代文』）】2年3学期

- ・ 教科書掲載外のテキストも配布し、広範囲から根拠を探して理解する試みを行った。また、複数の質問が、相互に関連し、深い理解に到達する連続課題も設定した。



教科名(科目名)	国語科 (国語総合)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	------------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	図書推薦スピーチ (論理的に提言できる力の育成を目指して 初級) A 話すこと・聞くこと (1)アイエ (2)ア スピーチをする言語活動
-----------------	---

### 1 単元の目標

推薦の根拠を明確にするなど、構成や展開を工夫して意見を述べる。  
 図書推薦という目的に応じて、効果的な表現をしたり、的確に聞き取ったりする。  
 内容や表現の仕方について相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てる。

### 2 単元の展開 (全5時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1時間)	・この半年の間に読んだ本の中から一冊選び、図書推薦スピーチの計画を立て、原稿を執筆する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に、目標を明示し、どのような能力・態度を身につけるために活動をするのか意識付けさせる。</li> <li>・聞き手に読んでみたいという気持ちを持たせる内容を盛り込ませる。推薦の理由を明確化させる。</li> <li>・原稿用紙(様式1)に記入し提出させる。</li> </ul>
第二次 (4時間)	・図書推薦スピーチを行う。聞き手は評価を行う。評価は「技術点」5点、「内容点」5点の10点満点。評価表に簡単な感想も書き込む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価表は、毎時間回収する。毎時間、教師が講評を行い、次時以降の発表する生徒は参考にするように促す。講評は回収の後にし、生徒相互の評価に影響を与えないようにする。</li> <li>・最後に、発表を振り返る。目標は達成できたか。</li> </ul>

### 3 解説

#### ○PISA型学力の育成について

自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成 (指導のねらい ウ(イ))

### ○設定テーマと授業実践との関わりと、具体的展開について

社会や身の回りの事象に対して問題意識を持ち、論理的に展開する提言を書く力を育む。これは、本校の「ことばの力育成プロジェクト」の研究課題であるが、具体的には、本校の秋の学校行事である、「提言コンテスト」の原稿内容と発表技術の質的向上を目指して設定したものである。そのために、スピーチに関する言語活動を行い、課題を変えながら、段階的に「提言コンテスト」に必要な能力・態度を身につけていく。その初級編として、手軽に取り組むことができる、図書推薦を話題としたスピーチを、夏休み前のタイミングで実施した。

流れは、

図書選択 → 材料収集（推薦の理由など） → 構成 → 原稿執筆 →  
発表 → 相互評価

というものであり、後述する中級編とは、グループで交流せずに原稿を作る点が大きく異なる。

また、図書推薦スピーチを、2年次以降も繰り返し実施する場合は、課題に条件を加えるとよい。例えば、生徒が自発的にはあまり読む機会がない、論理的な本や実用的な本を図書館で借り、その内容を要約して伝えたいうえで、自己の感想を述べる内容にするなどである。

### ○相互評価の採点基準について

次の点に留意して、技術・内容各5段階で評価する。1＝努力を要する 2＝やや努力を要する 3＝満足できる 4＝優れている 5＝とても優れている

- ・技術点：前を見て話しているか。声は聞き取るのに十分な大きさで、はっきり発音しているか。原稿の棒読みになっていないか。聞き手を引きつけるための工夫がなされているか。
- ・内容点：紹介図書が印象に残ったか（読みたいと思ったか）。推薦理由が理解できたか。あらすじの紹介が長すぎなかったか。

### ○評価について

目標とした能力・態度等が身についたかを評価するために、次の項目に分けて行った。配点は①は20点、②～④は各10点、合計50点。

- ①生徒による、スピーチの評価（相互評価）の平均点
- ②教師による、スピーチの評価……目的に応じた効果的な話し方ができたか。後の発表者は、前の発表者の良い点を取り入れた発表ができたか。
- ③計画カード（原稿の内容を含む）の評価……構成や展開に工夫が見られたか。
- ④相互評価表の評価……的確に聞き取って客観的に評価し、感じたことを表現できたか。

### ○成果について

図書推薦という比較的取り組みやすい課題であったこと、それほど論理的な展開は必要としないことなどの理由のためか、発表者は比較的短期間で計画を立てることができた。また、計画（原稿）の提出順に発表させたため、意欲の高い生徒が序盤に集まり、それを

見本とすることができ、全体の発表技術も向上したと思われる。全体を通して、楽しい雰囲気の中で活動できたのも良かった。「提言コンテスト」に向けて必要とされる能力、その育成を図る第1段階としての目的は達成できたのではないか。

聞き手としての生徒の反応もすこぶるよく、夏休み前に実施したので読書感想文の指導につなげることができた。同じクラスの友人がどんな本を読んでいるかを知るということは、読書活動の刺激となり、読書指導のための取組としても効果は高い。

様式1 図書推薦スピーチ 原稿用紙

	作品名	作者名	氏名 <small>ふりがな</small>
			組 番
	※教員記入欄		

推薦のポイント(簡条書き)

「任意」本スピーチの目標は、本の内容を伝えることではなく、その本の面白さを伝えて、聞き手に読んでみたいという気持ちを起させることです。

原稿用紙は裏面もあります(600字)

20×30

図書推薦スピーチ 推薦番号	推薦者	氏名	推薦書名	推薦内容	推薦理由	推薦日	推薦場所
10701							
10702							
10703							
10704							
10705							
10706							
10707							
10708							
10709							
10710							
10711							
10712							
10713							
10714							
10715							
10716							
10717							
10718							
10719							
10720							
10721							
10722							
10723							
10724							
10725							
10726							
10727							
10728							
10729							
10730							
10731							
10732							
10733							
10734							
10735							
10736							
10737							
10738							
10739							
10740							
10741							

※ 評議上の正常（下記の場合）に留意して、推薦・内容各5段階で評価する。1＝努力を要する 2＝やや努力を要する 3＝満足できる 4＝薦れている 5＝とても薦れている  
 ①推薦書名：表紙を見て知っているか、声は聞き取るのに十分な大きさで、はっきり発音しているか、原書の挿絵みになっていないか、聞き手を引きつけるための工夫がなされているか。  
 ②推薦理由：推薦理由が明確で具体的か、あらすじの紹介が必ずしも必要でなく、紹介の趣意が明確に伝わったか（興味をひかれたか）。

教科名(科目名)	国語科 (国語総合)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	------------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	あの人にインタビュー (論理的に提言できる力の育成を目指して 初級) A 話すこと・聞くこと(1)アイエ (2)ア スピーチをする言語活動
-----------------	--

### 1 単元の目標

- ・インタビューを通して自分の目や耳で確かめた情報を得る。
- ・目的や場に応じて自らの意見や考えを聞き手に分かりやすく論理的に伝える力をつける。

### 2 単元の展開 (全6時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の趣旨を理解する。</li> <li>・インタビューをする相手とその内容を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元は「自分の目や耳で確かめた情報を得ること」「自分の意見や考えを聞き手に分かりやすく伝える力をつける」ことを目標にすることを伝える。</li> <li>・インタビューをする相手は、できれば自分よりも年上の人を選ぶよう指示する。</li> <li>・期限までにインタビューを済ませ、メモを持ってくるように指示する。</li> </ul>
第二次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの内容と自分が感じたことや考えたことを1200字以内で書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者を選んだ理由、対象の話題を選んだ理由、相手の話を聞いて考えたことを中心に書くように伝える。</li> <li>・自分の日記ではなく、「人に伝える」ということを念頭において文章を書くように指示する。</li> </ul>
第三次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人3分以内でクラス全員の前で原稿を読む。</li> <li>・聞き手の生徒は、評価シートに記入をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す速度や声の大きさを工夫して、聞き手にとってわかりやすい発表になるように意識するよう指示する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス41名中良かったと思う3名の名前に○をつける。</li> <li>・評価シートは「声の大きさ」、「視線」、「態度」、「内容」についてA～Cの評価を記入したのち、発表者に対してコメントを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントは後日、個人別に切り取って本人に渡すことを伝える。</li> </ul>
第四次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者からの講評を聞く。</li> <li>・次の発表で気をつけたいことを書き、班内で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価シートで評価の高かった生徒を紹介する。</li> <li>・個人に対するコメント欄を個人別に切り取り、綴ったものを本人に配布する。</li> </ul>

### 3 解説

#### ○目標について

本実践は、生徒に「自らの目や耳で確かめた情報を得る経験をさせること」、「自分の意見や考えを相手にわかりやすく論理的に伝える力を身につけさせること」を目指して行ったものである。前者について、彼らは日々多くの情報に触れているが、その中には誤った情報や一方的な視点から捉えた情報も少なからず含まれているのが現状である。インターネットなどを通じて手軽に情報を得ることができる環境にいる生徒たちに、自分で確かな情報を得るという経験をさせることにより、身の回りの情報に対する意識を高めたいと考えて目標に据えた。また、後者については、これからの社会では筋道立てて物事を考えるとともに、他人を尊重しつつ自らの考えを伝え合う能力が求められている。ただやみくもに自分の考えを述べるのではなく、論理的に話すためには言語に対する感覚を磨いていくことが必要であると考えて目標に据えた。

#### ○PISA型学力の育成について

自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成（指導のねらい ウ（イ））

#### ○中心となる授業の具体的展開及び成果の分析について

この実践を行う事前指導として、「私の○○を紹介します」というテーマを設定し、今回と同じ形式で発表や評価をさせた。それをふまえて、今回の発表ではその時の良かった点を伸ばし、反省点を改善できるような発表をするよう指導を行った。

1回の授業で名簿順に13～14名ずつ発表させ、発表ごとに評価シートに記入をさせた。発表に関しては普段やりなれていない活動のせいも、原稿を棒読みするだけの生徒も多かった。しかし、中には、声の大きさの強弱をつける、話の途中に間をおいて読む、笑いを誘うような表現をするなど、工夫をして読むことができている生徒もいた。そのような生徒の発表を聞いて、その後の生徒が自分の発表に取り入れている場面も見られた。前

回の発表と比較すると、おおむね「自分の考えをわかりやすく相手に伝える」ということを意識して発表をすることができていたようである。

ただ、このような取組は1回だけでは十分な成果をあげることは難しいと感じた。生徒からも、授業後に「次に発表する機会があったらこのようにしたい」という声が多く聞かれた。繰り返し発表の場を経験させることにより、伝える力が向上していくのだと考えられる。今回の実践を生かせるよう今後も継続的な指導を行っていきたい。

#### ○評価における工夫について

本実践においては、生徒同士の相互評価という形を取り入れた。評価シートを用意し、それぞれの発表を聞いて「声の大きさ」、「視線」、「態度」、「内容」の4つの観点についてA～Cの評価と発表者に対するコメントを記入させた。書いた者が特定できないようにし、コメント欄のみを切り取り、個人別に後日発表者に配布をした。

生徒は、自分の発表が周りの人にどのように受け止められたのか、大変興味深かった様子で、自分以外の40人が書いてくれたコメントを真剣な表情で読んでいた。また、友達から評価を受けることにより、客観的に自分の発表を振り返ることができたようである。

最終的には、生徒の評価を点数化し教師の評価と合わせてこの単元の評価を行った。

一年国語総合「あの人にインタビュー」No.1

1 目標

- ①インタビューを通して自分の目や耳で確かめた情報を得る。
- ②インタビューで得た情報に対して自分の意見や考えを述べる。
- ③自分の意見や考えを聞き手にわかりやすく伝える力をつける。

2 方法

- ①自分が関心をもつ人物にインタビューをする。
  - 対象は指定しません。自分の家族や親類をはじめ、近所の人、自分が将来なりたい職業についている方を探してみても良いです。
  - ただし、インタビューの内容を授業で発表することをあらかじめ伝え、必ず本人の許可を取ってください。

- ②インタビューで聞いてきたことと、それに対する自分の意見や考えを原稿用紙三枚程度にまとめる。

○なぜその人に話を聞きたいと思ったか、なぜその話題について聞きたいと思ったか、相手の話から何を感じ取ったのか、その話をどう受け止めて、どのようなことを考えたのか、などについて、「人に伝える」ということを意識して文章にしましょう。

- ③クラスの友達の前で発表する。

○一人ずつ前に出て、三分以内でスピーチをします。

○話すスピードや声の大きさを工夫して、聞き手にわかりやすい発表になるように意識しましょう。

3 評価

- ①発表内容と発表の仕方について、発表者以外の方が評価シートに記入する。

☆原稿の締め切り・・・十一月五日  
 ☆発表会・・・十一月十五日～十七日

「あの人にインタビュー」No.2

( )組( )番( )

- 1 インタビューの対象人物と、何の話を聞くのかを決めましょう。

「さんの「	「の話
(その人を選んだ理由)	

- 2 インタビューで質問したいことを書き出してみましよう。

(ここに質問したいことを書き出すための縦線が引かれています)	(ここにインタビューの内容や感想をまとめるための縦線が引かれています)
--------------------------------	-------------------------------------

教科名(科目名)	国語科 (国語総合・現代文)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	----------------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	スピーチをしよう (論理的に提言できる力の育成を目指して 中級) A 話すこと・聞くこと (1)アイエ (2)ア スピーチをする言語活動
-----------------	---

## 1 単元の目標

話題について様々な角度から検討して自己の考えを持つ。

論拠を明確にしたり反対意見を想定したりするなど、構成や展開を工夫して意見を述べる。

内容について意見交流や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

自然や文化や産業など身の回りの事物に対して関心を持つ。(例2)

社会や身の回りの事象に対して問題意識を持つ。(例3)

## 2 単元の展開 (全6～7時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチにふさわしいテーマを選ぶ (テーマについては、解説に詳述)。</li> <li>論述のための材料を収集する (マップ法を利用)</li> <li>材料を整理・分析・考察し、構成表をつくる。(付箋利用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に目標を明示し、課題説明。</li> <li>構成は、主張→論拠の列挙の順を推奨する (頭括式か尾括式)。</li> <li>論拠を説明する部分も、トピックセンテンス (段落冒頭の見出し的記述) → 補足 (具体例を挙げて詳述) の順を奨励する。</li> </ul>
第二次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4～6人のグループに別れ、その中で構成表を見せながら説明する。その後、他者からの批評を受ける。</li> <li>他者の意見を受けて構成を訂正し、その上で原稿を執筆する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れないうちは、グループは同じテーマ選択者で構成する (テーマ選択型の場合のみ)。</li> <li>時間に余裕があれば、説明→意見交流→構成訂正→説明→意見交流→構成訂正 と繰り返し、より説得力のある構成をねらせる。</li> </ul>
第三次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内でスピーチのリハーサルを行い、技術面も含めて批評を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がないときは省略する。できれば実施して、原稿の質を向上させる。</li> </ul>

<p>第四次 (4時間)</p>	<p>・スピーチを行う。聞き手は評価を行う。評価は「技術点」5点、「内容点」5点の10点満点。評価表に簡単な感想も書き込む。</p>	<p>・評価表は、毎時間回収する。毎時間、教師が講評を行い、次時以降に発表する生徒は参考にするように促す。講評は回収の後にし、生徒相互の評価に影響を与えないようにする。</p> <p>・最後に、発表を振り返る。目標は達成できたか。</p>
----------------------	--	---

### 3 解説

#### ○PISA型学力の育成について

自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成（指導のねらい ウ(イ)）

#### ○設定テーマと授業実践との関わりについて

本校は、9月～11月にかけて、全学年全学級を対象に「提言コンテスト」を実施している。別項で述べた図書推薦スピーチ同様、本活動の最終目的は、このコンテストの原稿内容と発表技術の質的向上である。なお、前述の図書推薦スピーチ等とは、計画（構成表）を作った段階で、グループで説明し合い、意見交換や質問を経た上で、原稿を執筆する点が大きく異なる。

#### ○中心となる授業の具体的展開及び成果の分析について

論理的に提言できる力の育成を目指して、スピーチに関する言語活動を行い、課題を変えながら、段階的に「提言コンテスト」に必要な能力・態度を身につけていく。テーマを決定させる際に、生徒にどのような課題を示すかで、難易度が変わってくるので、生徒の現状に応じて、適切なものを示したい。本年度は、次の3例を立案した。

#### 【例1 テーマ選択型】（中級）

学期中に学習した内容から課題を選択し、スピーチ原稿を作る。かならず主張とその論拠を盛り込む。次のA～Dは、本年度の実施例である。

A 携帯電話（人権学習受講内容）

B 食生活（保健学習受講内容）

C 電気・発電（身近な関心事）

D 生物としての感覚（国語教材、中村佳子著「環境問題への視点」の主題）

Cは他の3つから選択できない者への救済策として、皆の関心の高いものを設定した。

テーマ選択 → 材料収集 → 整理・分析・考察 → 構成 →

グループ内で説明と意見交流 → 構成訂正 → 原稿執筆 →

グループ内でリハーサルと批評 → 発表

【例2 地元紹介型「舞鶴再発見」】(中級・試行のみ)

地域社会に目を向け、地元舞鶴の意外な魅力を紹介するスピーチ原稿を作る。

「提言コンテスト」の原稿を作るためには、社会や身の回りの事象に対して問題意識を持たなければならない。その前段階として、普段見落としがちな自然や文化や産業など、身の回りの事物に対して関心を持つことが、この活動の新たな目標である。

対象は、自然・伝統文化・産業・食文化 など、舞鶴(地元)のものであれば、何でも良い。但し、「再発見」なので、多くの高校生が普段から興味を抱いていそうな内容は避ける(例:新しい店の紹介などは×)。できるだけ、地元の人や、その産業・文化に携わる社会人のインタビューを入れる。

対象候補列挙・絞り込み → 取材 → 構成 → (以降の流れは例1に同じ)

【例3 提言型】(上級・未実施)

社会や身の回りの事象をふりかえり、改善したい現状を列挙し、その中から、提言にふさわしいテーマを選びスピーチ原稿を作る。現状改善に向けて、自分がどのように関わっていくかを具体的に考え、原稿に盛り込む。

課題候補列挙 → 課題選択 → 材料収集 → 整理・分析・考察 → 構成 →

(以降の流れは例1に同じ)

本年度は「提言コンテスト」に先立つ7月に、昨年度図書推薦スピーチを実施済みの2年の講座を対象として、例1を実施した。例2については、例1と同時に、選択肢の1つとして設定し、試行した。例2については、来年度1学期に、3年を対象に実施予定である。選択者数の内訳は、Aが12人、Bが12人、Cが14人、Dが2人、例2が1人であった。

活動の様子について少し触れたい。構成表の作成には、マップ法を利用した。話題について様々な角度から検討した上で、自己の考えを絞り込むことは、自己の主張を具体的に補強するのに役立った。また、反論も想定しやすくなったようだ。本論部分の論拠の説明も、トピックセンテンスを述べてから補足で詳しく説明するという型を採り、分かりやすい展開になった者が多かった。

課題もいくつかあった。グループによる活動は、一人6分で説明と意見交流を行ったが、十分話をできない者が多かった。時間をもう少し長めに設定することも可能だが、むしろ、現代文の日常的な授業における言語活動で、課題を短時間で行う能力を高める必要があると感じた。Cを選択した者は、テーマが身近だが解決が難しい問題でもあったので、「原子力発電には反対なので、新エネルギーを、または節電を」という内容に偏った。このような活動を継続して行い、更にももの見方、感じ方、考え方を豊かにする必要がある。

例2を選択した者は1人だけだったが、自分の生まれ育った、山川や田畑や動物たちに囲まれた田舎の良さを、具体的な経験を交えつつ、郷里への愛情を込めて紹介することができた。街中に住む多くの生徒たちにとって、その話は新鮮だったらしく、相互評価もクラスで3位と高い評価を得た。例2の課題は、次年度に本格実施を予定しているが、よい試行となった。

○評価について

目標とした能力・態度等が身についたかを評価するために、次の項目に分けて行った。配点は①は20点、②～④は各10点、合計50点。

- ①生徒による、スピーチの評価（相互評価）の平均点
- ②教師による、スピーチの評価……目的に応じた効果的な話し方ができたか。後の発表者は、前の発表者の良い点を取り入れた発表ができたか。
- ③計画カード（原稿の内容を含む）の評価……構成や展開に工夫が見られたか。
- ④相互評価表の評価……的確に聞き取って客観的に評価し、感じたことを表現できたか。

○「提言コンテスト」の現状について

「提言コンテスト」において、原稿内容や発表技術の指導にあたるのは学級担任である。国語の教科担当者の役割は、コンテスト課題に対応できる能力を、授業内の活動で育成することである。この単元はそのような能力を育成することを目標として活動してきたが、同時に、クラス代表選出までの活動の型の模索でもあった。「提言コンテスト」も例1や例2と同様に、構成を考えた後に、

構成 → グループ内で説明と意見交流 → 構成訂正 → 原稿執筆 →  
グループ内でリハーサルと批評 → 発表

と展開していくのが理想である。これが例3である。国語の授業で、この展開に慣れさせておけば、生徒は自発的に動く可能性が高い。担任の経験にそれほど左右されることなく、原稿の質、発表技術の質は自ずから上達することになるだろう。

しかし、これをやりきるには7時間以上を要する。現在「提言コンテスト」に配当されているLHRの時間は、わずかに3時間。現状の配当時間では無理がある。その3時間の使い方は、説明と計画に1時間、原稿執筆に1時間、クラス代表選出に1時間である。代表選出の際は、全生徒に発表（音読）させて選出するクラスもわずかにあるが、大半のクラスは、原稿で8名程度に絞り込んでから発表させて選出、または、原稿だけ読んで選出という方法を取っている。実際に音読されずに終わる原稿がかなり多いのが現状である

公平を期すために教科担当は口を出さないという条件で、国語の時間を4時間程度提供

するなど方策は考えられるが、時間が増えれば増えるほど、学級担任の負担は増すことになる。国語をはじめとする教科の日常の言語活動で生徒の能力を育成し、グループ活動が無くても、良い原稿が執筆できるように努力するしかないのが現状である。

		テーマ選択型スピーチワークシート（選択テーマ 主題文 材料収集 反論想定）	
		2年 組 番 氏名	
		選択テーマ	A 教師選定 B 先生選定 C 意見・発議 D 発議としての発表 E 発議評議
		演題	副題
		主題（結論）	
		作業欄A テーマから選択される関連事項を、マップ法で書き出そう。	
仮の結論	反対意見の想定と反論		

教科名(科目名)	国語科 (国語総合)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	------------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	小論文の書き方  B 書くこと (1)イエ (2)イ 意見文
-----------------	--------------------------------------

## 1 単元の目標

自分の考えを的確な語句を用いて、筋道立てて表現する力を育成する。  
他人の意見を聞き、それらを理解した上で自分の考えを再考する

## 2 単元の展開 (全3時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小論文の書き方について学ぶ。</li> <li>「携帯電話についてあなたの考えを述べなさい。」というテーマにおいてフローチャートを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小論文と作文の違いについて理解させる。</li> <li>フローチャートにより自分の考えを深めさせるように努める。</li> <li>小論文に不可欠である根拠を、言い切るように指導する。</li> </ul>
第二次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>フローチャートを班内で見せあい、お互いの意見を交流する。</li> <li>「現代用語の基礎知識」「朝日キーワード」などの資料を参考に自分の考えを深める。</li> <li>フローチャートを基に400字の原稿用紙に小論文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに忌憚のない意見を出せるように指導する。</li> </ul>
第三次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出された小論文を班内で添削させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人的意見に偏らないように指導する。</li> <li>先入観にとらわれないようにするため、作者名は伏せ、公平に審査させる。</li> <li>採点のポイントを班内で確実に共有させた上で、責任を持って添削するよう指導する。</li> </ul>

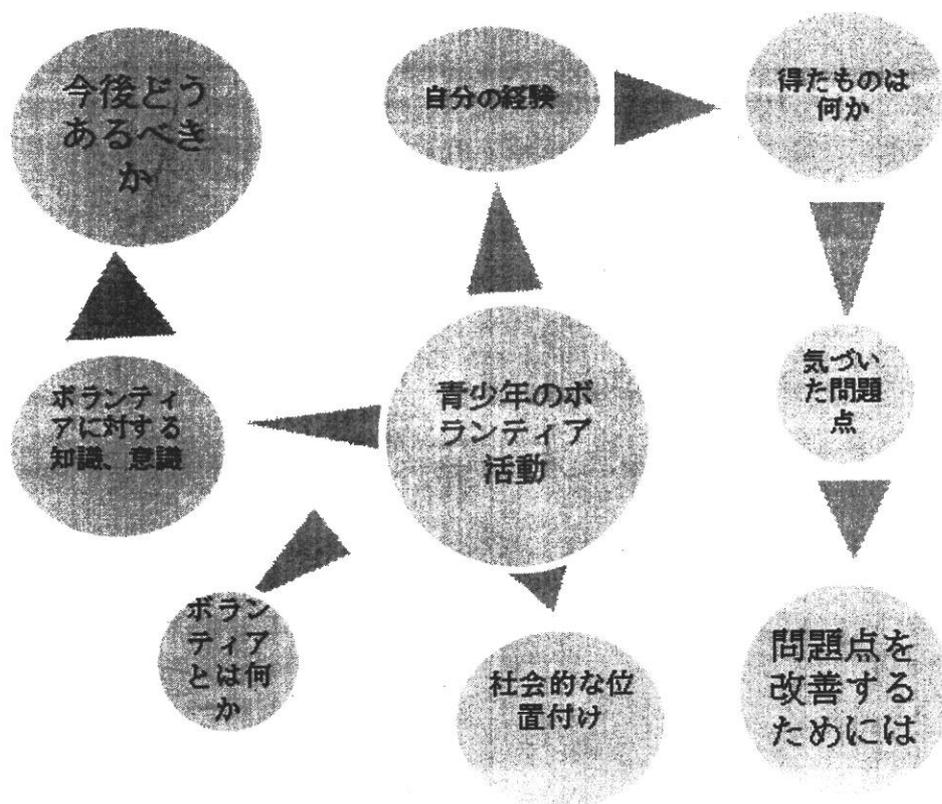
### 3 解説

#### ○成果と課題

- ・講義形式ではなくお互いの意見を言い合うディスカッション形式を経験させ、今後の授業内でも活発な発言を期待して設定した単元であったが、期待通り、これ以降の授業においては各自の意見が言い合える空気を作ることができた。国語の授業はともすれば一方通行の授業となりがちであるが、生徒の意見を引き出す起爆剤として、こういった形式の授業に取り組むことは有効であったと感じている。
- ・「思う」という単語を好み、自分の意見を言い切ることができない傾向にあった生徒たちであったが、この授業を通して言い切ることへの勇気をもつ事が出来たようである。自分の意見に責任と自信を持ち発言するということは、国語の授業においてだけではなく、生徒自身の生きる力にもつながることである。今後もこのような授業を用いて、発言力の向上に努めたい。

### 4 使用した参考資料

- ・下記のようなフローチャートを例示し、生徒にフローチャートを用いて自分の考えを深め、またまとめるように指示した。矢印を効果的に用い、一つの物事についていろんな見方で考えを深めることが目的である。実際にはB4の白紙の用紙を配布し、生徒が自由に矢印を伸ばしていけるようにした。後で提出させた際に、生徒の考え方が理解しやすく、指導においてもアドバイスがしやすかった。



教科名(科目名)	国語科(現代文)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	----------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	架空の都市の開発プロジェクトを考える 現代文B(1)エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。
-----------------	--

## 1 単元の目標

- ・自分の立場の主張を相手に伝え説得する。(表現する力)
- ・反対の立場の主張を理解する。(聞く力)
- ・与えられた情報、意見をもとにどのようにしていくべきか考える。(判断する力)
- ・さまざまな意見を予想する。(多角的な視点)

## 2 単元の展開(全6~7時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (2時間)	課題文(用紙1)を読んで、8つの立場に班分けする。大きく分けて開発に賛成と反対の立場があることを理解し、主張が通る意見ができるように話し合う。(用紙2)	目標を明確にする。 最終的に討論会を行うことを伝え自分の立場の主張が通るように論理的に考えさせる。
第二次 (1時間)	2班ずつ話し合いをさせる。自分の班とは反対の立場の班と話し合い、討論会に向けての課題を見つける。(用紙3)	反対の意見をもつ相手に、自分の意見を通す事の難しさに気づかせる。自分達の意見の欠点を見直し、最終討論に向け検討する。
第三次 (1時間)	次回の討論会に向けての事前指導をする。討論会に参加する2名を決める。画用紙、ペンを配り最も主張したいことを書いたクリップボードを作成させる。1分間で主張を述べることができるように原稿を作成する。(用紙4)	クリップボードは色や文字の大きさ、キャッチコピーをつけるなど、相手に訴えかけるにはどうすればよいか考えさせる。 1分間の主張で最も伝えるべきことは何か考えさせる。
第四次 (2時間)	判定用紙(用紙5)を配り、事前指導にそって討論会をする。	教員が司会役になり、円滑に議論が進むように手助けする。

		感情論や、中傷的な発言が出ないよう気を付ける。
第五次	課題文をもとに、個人で小論文を書かせる。自分は賛成か反対かを明確にした上で800字程度で書く。	討論会で学んだことを活かすために、予想される反論を踏まえた上で書くように指導する。

### 3 解説

ある都市に開発プロジェクトが起こったという設定で、それぞれ違う立場から問題点を考えていくという言語活動を行った。

これは、京都府立東稜高等学校の西村宣幸先生の実践例を、西村先生の許可をいただいで再現したものである。

#### ○成果

- ・紙媒体での意見交換ではなく、実際に討論という形をとったために、多くの生徒が他の立場の意見を踏まえつつ、自分の主張を通すということの難しさを実感してくれた。
- ・共通の立場である、自分の班との意見交換、違う立場の班との意見交換を通じて、一つの物事に対して様々な角度から物事を見ることの大切さ、難しさに気づいてくれた。

#### ○課題

- ・討論会では、生徒がなかなか自主的に発言することができず、司会（教師）が促して初めて発言することが多かった。班編制や与える時間を工夫する必要があった。
- ・具体的な話（税収や、政策面、法律等）になったときに、答えるすべをもたないという状況があった。事前の話し合いの段階で、具体的な資料の提示（他教科との連携も視野に入れ）をするべきであった。またインターネットや図書館の活用も有効だと思われる。

#### 用紙 1

##### 「〇〇市 未来プロジェクト」

ねらい

- 自分の立場と違う様々な立場の人の考え方や気持ちを理解する。
- 1つの問題に関して、様々な立場や価値観が存在することを認識する。
- 自然環境の保護と地域の開発について、よりよい問題解決の方策を考える。

〇〇市は、〇〇川の下流に位置する人口6万人の地方都市である。人口100万人の京都市へは車で1時間足らずのところにある。豊かな土地と水に恵まれたこの地域は、京都市へ新鮮な野菜を供給する農業地域として栄えてきた。また、〇〇川の河口にはさまざまな生き物が生息し豊かな自然の生態系を形作っている。さらに、この地域の農作物や樹木は、京都市を走る車の排気ガスによって汚染された空気をきれいにしたり、京都市が大量に消費するエネルギーによって温暖化された空気を冷やすなど、環境の悪化を和らげる役割も果たしている。市も「豊かな自然を子どもたちの世代に」をスローガンとして掲げてきた。

ところが、政府の減反政策で休耕田が目立つようになった。さらに、ここ2、3年の異常気象が収穫に大きな打撃を与えている。農家の中には、新しい農機具を買ったりして努力したが、農作物の自由化で安い農作物が大量に輸入されるようになり、借金ばかりが残る農家が多くなった。後継者も減り、先祖代々の農地を売ってそのお金で新しい仕事を始めようとする者も出るようになった。

一方で、この土地と農業に対する愛着から、都市部に近いという地の利や、先祖代々の自然農法で安全でおいしい作物を消費者に提供して行けば、必ず未来はあると信じている農家もある。

この状況に目をつけたのが、大手開発業者である。最近、京都市のベッドタウンとして人気急上昇し、土地の価格もどんどん上がっている。道路を整備し、農地を宅地に売って新しい家を建て、新しい住民を増やし、学校や病院等の公共施設や商業施設を次々と建設するという一大プロジェクトになる。地元の人々の生活も豊かで便利になるはずである。

〇〇市はここ数年税収が減少傾向にあった。推進派議員は開発プロジェクトによって企業を誘致し、新たな住民が増えれば、市の活性化につながり、税収も増えると考えている。しかし、反対派議員は間近に迫った市長選挙を意識して、市のスローガン「豊かな自然を子どもたちの世代に」を公約に掲げ、市長派が推進する開発プロジェクトに反対している。

### 4 参考資料

HP 「教育の職人」 <http://www.pat.hi-ho.ne.jp/nobu-nisi/>

〇〇市は「〇〇市未来プロジェクト」をめぐる、推進派と反対派が激しく対立している。そこで、公開討論会を開催することになった。

- |         |         |           |          |
|---------|---------|-----------|----------|
| A 推進派農民 | B 反対派農民 | C 開発業者    | D 環境保護団体 |
| E 推進派議員 | F 反対派議員 | G 地元商店街店主 | H 地元住民   |

用紙2

「〇〇市 未来プロジェクト」

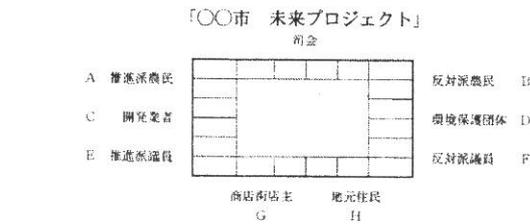
立場		
主張（開発推進派意見）	不賛成される反対意見（開発反対派意見）	
まとめ・メモ等		

用紙3

「〇〇市 未来プロジェクト」

立場	記号		
話し合った相手			
自分の立場	相手の立場		
相手と話し合ったこと			
気づかされた点、自分の考えの改善点			

用紙4



上記のように着席する。各立場のテーブル席につく。他の人は後ろに椅子だけで遊ぶ。  
※教室の広さを見て、机の数は加減する。

**討論会の進行**

- ① 各席クリップボードを使い、1分間で最も伝えたいことを述べる。約8分
- ② 自由討論 約15分  
①での主張に疑問に感じた部分を質問する。また質問された立場の人は質問に対する返答をする。返答しきれない場合は、一旦保留し③の作戦タイムで再度話し合う。
- ③ 作戦タイム 約5分  
陣方陣番と話あう
- ④ 自由討論 約15分
- ⑤ 判定・感想  
一緒に配布してある、判定用紙に「〇〇市の開発」を推進するか反対するか決め○をつける。自分の立場を基本的に守る。地元商店街店主・住民は自由に投票。  
また、感情ではなく論理的思考にもとづいて判定するようにして下さい。

※ 司会の指示には必ず従うようにして下さい。  
※ この用紙の裏がメモ用紙になっているので、相手が主張している時に感じた疑問点などをメモする等、活用して下さい。

用紙5

「〇〇市 未来プロジェクト」

〇〇市議員	番	氏名
〇〇市の開発に		
賛成する	反対する	〇××××
理由		
説得力のあった話		
理由		
感想（相手のこと、気づいたこと、反省点などメモを入れて書く）		

教科名(科目名)	国語科(古典)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	---------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	古い注釈書を読みながら、『伊勢物語』を解釈しよう 古典B(2)イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを 読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。
-----------------	--

### 1 単元の目標

- ・宗祇が『伊勢物語』をどう読んだのかを押さえた上で、本文に戻ること、文章を批判的に読む視点・本文に忠実に読む能力を身に付ける。
- ・古典享受の歴史に触れさせることで、古典に対する関心を高める。

### 2 単元の展開(全7時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (1.5時間)	・宗祇が、第二段の女をどう解釈し、男をどうとらえていたのかを理解し、彼が『伊勢物語』に何を讀んだのかを把握する。	・まずは、個人で考えさせ、その後隣の生徒と相談させる。
第二次 (0.5時間)	・宗祇の解釈の一部を受けた、武家社会における解釈を理解し、なぜそのような解釈が作られたかを考える。	・宗祇の解釈全体と比較すると、武家社会における解釈に無理があるということを示すことで、この後の、宗祇の解釈を批判的に読むためのヒントとなるようにする。
第三次 (2時間)	・本文を正確に理解し、全体を総合的に見て根拠となる箇所を指摘し、女と男がどういう人物かをまとめる。 ・第二段が描こうとしているものを読み取る。	・逐語訳し、本文に忠実に解釈すれば、宗祇のとは違う解釈が見えてくる、と注意しておく。 ・まずは個人で考えさせ、その後机を動かし、4人グループで相談させる。
第四次 (1時間)	・第一段を問題演習形式で読む。	・一・二段の描こうとしているものが共通していることを確認する。
第五次 (2時間)	・第三段を第一段と同様に読む。	・出た意見を分類し共通点を探す。 ・共通する主題についてまとめる。

### 3 解説

「同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。」を指導するに当たって、次の①～③を活動を始める前、板書して示した。

- ①テキストを鵜呑みにしない。
- ②根拠を示しながらテキストを正確に読み取る。
- ③他者と意見を交換し考えを発展させる。

#### ○具体的展開

まず、①については、テキストとして、宗祇派の注釈書(後述の4 参考資料のウ参照)を使用した。中でも妥当性を欠く部分、根拠の弱い部分と考えられる、「男」と「女」の人物像に関する部分を取り上げた。まずは文法・重要語にチェックをさせた。そして、宗祇らが『伊勢物語』に何を讀んだのか、彼らにとって『伊勢物語』とは何であったのかを簡単に押さえ、宗祇らの立場に立って、注釈書本文を絶対視した解釈をした。

「PISA調査の結果を踏まえた指導の改善」の中の(イ)評価しながら読む能力の育成に「従来は、本文を絶対視して指導することが多く、テキストの内容や表現を吟味・検討したり、その妥当性や客観性、信頼性などを評価したり、自分の知識や経験と結び付けて建設的に批判したりすることは少なかった。」とある。今回も、第二段で解釈を行った段階では、生徒の多くは批判的に読むことに慣れていな様子であった。グループになり自分たちの解釈を考える段になっても、宗祇らの立場に立った解釈から離れられず、宗祇らの説が正しいことを大前提にして相談する班があった。

そこで、第三段で解釈を行うときには、それぞれの説がどのような点で説得力に欠けるのかを考えさせる問を設けた。すると、この問に対しては、第二段での慣れがあったのか、やるべきことを正しく把握し話し合う班が多く見られた。宗祇らの説が、どう弱いのかを話し合い、主張の客観性・筋道の妥当性・根拠の適否を検討し評価するという作業の第一歩を踏み出せたように感じた。

因みに第一段は、1年時に扱ったことがあったため、第二段解釈と第三段解釈の間に、問題演習形式にして、復習させた。『伊勢物語』が描こうとしているものを、第一段も踏まえて考えるのがねらいである。

次に、②については、①に連動させ、「男」と「女」の人物像を問う問題を設けた。活動前に、必ず根拠となる部分を挙げること、という指示をした。そうすると、多くの生徒が本文を意識し、自然とまずは逐語訳をしていた。①の作業において、根拠の適否を吟味検討した経験を活かし、ほとんどの生徒が根拠を持って自分の考えを持つことができた。中でも18名の生徒が、しっかりとした根拠を持って自分の解釈を作り、班に広めることができた。

そして、③については、ほぼ全員の生徒が、他の班員と積極的に話し合い、32名が、交流した結果を自分なりにまとめることができた。

最後に、クラス全体で意見を交換し合った。16名の生徒から意見が出た。その場で、出た意見を分類させ、共通点をまとめさせ、それぞれの説得力の強弱について考え、意見を述べ合わせた。

## ○評価

評価をするにあたっての工夫であるが、「自分が最初に考えた答え」、「グループの人の考え」、「クラス全体で話し合った結果得たことをメモ」と欄を分けさせることで、作業の過程が残るようにした。

## ○成果と課題

最初は生徒の多くが、批判的に読むことができなかった。しかし次第に慣れてくると、最後にはテキストに直接書いてあることについては、自分たちで考え判断するレベルには達したと思われる。

課題としては、判断の根拠について、総合的な判断が必要な場合である。たとえば、第二段で「男」の人物像を押さえ、その後第一段を読み「男」の人物像を重ねて示したが、それを解釈に生かすことはなかなかできなかった点などが指摘できる。今回はヒントを与え、生徒の理解を支援する形をとった。

それでも、各注釈書の不備を押さえた上で『伊勢物語』本文に戻ったことで、テキストの表現に忠実に読むということを手感できたのではないかと考える。

また、古い注釈書を、間違っていると捉えるに終わらず、注釈書執筆者が『伊勢物語』に何を讀んだのかという視点も示すことで、古典享受の歴史にも少しふれることができたのではないだろうか。以下に、生徒の感想の一部を載せる。

### 批判的に読むことについて

- ・最初は批判的に読むのが難しかった。言われると確かに間違っているところがあるなあと考えた。でも、意識しないとおかしい点に気付かないとわかった。
- ・よく考えていくと、違う考え方がいっぱいあると気付いた。
- ・いつも間違っているなんて思いながら読まないのが慣れてなくて、逆に深読みしすぎることもあった。

### グループで話し合ったことについて

- ・「どういう事？」と聞かれ、どうしたら上手く説明できるかと、考えることでだんだん近づいていく感じがした。
- ・自分の意見に自信をもてないので、書いたり発言にしたりしにくい。
- ・話がどんどん広がった。答がないっていうのが好き。国語ならではだと思し、他の人の意見でも、こういう考え方もできるととらえられる。

## 4 参考資料

ア 大谷俊太「余情と倫理と一伊勢物語旧注論余滴」『叙説』2006年3月

イ 『伊勢物語』本文(第一段は省略する)

(第二段)昔、男ありけり。奈良のみやこは離れ、このみやこは人の家まだ定まらざりける時に、西の京に女あり。その女、世人にはまされりけり。その人、かたちよりは心なむまさりたりける。ひとりのみもあらざりけらし。それをかのまめ男、うち物語らひて、帰り来て、いかが思ひけむ、時はやよひのつたち、雨そほふるに遣りける。

起きもせず 寝もせで夜を 明かしては 春のものとして ながめ暮らしつ

(第三段)昔、男ありけり。懸想じける女のもとに、ひじき藻といふ物を遣るとて、  
思ひあらば むぐらの宿に 寝もしなむ ひじきものには 袖をしつつも  
二条の後まだ帝にも仕ふまつり給はで、ただ人にておはしましける時のことなり。

ウ 『伊勢物語』注釈書(授業で中心的に使用した部分)

(※は『角川古語大辞典』を参考に授業者が生徒向けに付した注である)

- ・西の京 …先、整をりたる西の京にありける女なり『伊勢物語肖聞抄』※西の京…朱雀大路より西の区域。東の京に貴族の屋敷が集まり、西の京は整えられないままさびれた。
- ・まされりけり…「世人にはまされり」と、まづ容儀・体配を褒めて、かたちよりは心な  
んまさるといふは、世にすぐれたる人と聞こえたり。『伊勢物語惟清抄』※容儀  
…容姿や立ち居ふるまい。 ※体配…風采。体のかっこう。  
  
…まことに世にすぐれたる人なるべし。かかる人なれば、業平の心をつくした  
るも、ことはりとみるべし。『伊勢物語肖聞抄』
- ・ひとりのみもあらざりけらし。それをかのまめ男、  
…人の妻などに心かけ侍らんは、おほかたの心ざしなどにてはあるべからず。  
『伊勢物語宗長聞書』  
  
…好色は実人にてはあるまじ『伊勢物語惟清抄』※実人…実直な人。「まめびと」と読む。  
  
…人をあはれむ情深き『伊勢物語肖聞抄』
- ・ひじき藻…文などのたよりにそへて参らせけるなるべし。昔はかかる物などをもやさ  
しくてつかはすにや。『伊勢物語肖聞抄』  
  
…細々申し入る所なれば、かやうの物をも奉るにや。『伊勢物語惟清抄』  
※細々…繰り返し何度も  
  
…時々海山の景気を見する心なり。食物ばかりの心に用ゐるはいやし。『伊  
勢物語逍遥院講談』  
  
…海の底にあるものなり。それをかやうに、我が袖はいつも常磐に濡るとい  
ふ心なり。『伊勢物語難儀注』※常磐…永久に続くさま。  
  
…業平、忠仁公に家礼の人なれば、二条の後へも親しくありけるにや。『伊勢  
物語闕疑抄』※忠仁公…藤原良房のこと。※家礼の人…被支配者であることを表す礼を行い、従属  
の意思表示をした者

教科名(科目名)	国語科 (国語表現)	学校名	西舞鶴高等学校
----------	------------	-----	---------

単元名 (学習指導要領)	<p>他者の発想・意見を取り入れて文章を書こう。</p> <p>(1)オ 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立つとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p>
-----------------	--

### 1 単元の目標

- ・グループで発想を出し合い共有し、自分にはなかったテーマのとらえかたを知る。
- ・下書きを読み合い、アドバイスをもらい、それを使って清書を書く。

### 2 単元の展開 (全2時間)

段階	学習活動	指導上の留意点
第一次 (0.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に、具体的エピソードを入れる意義を理解する。(15分)</li> <li>・テーマを聞き、自分一人で案を出す。(どのような結論の文にするか、どのような具体例を挙げるか) (10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を入れることが効果的であることを、例を挙げて十分に分からせる。</li> <li>・一般化されたことばの短所を挙げて説明する。</li> </ul>
第二次 (0.5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟な発想を持つことの大切さを理解する。(2分)</li> <li>・グループになり、テーマから連想されたことばを、順に言って、書き出していく。(13分)</li> <li>・連想で出されたことばを分類し、まとめる。(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例を挙げ十分に分からせ、次に行う連想の作業を、発想豊かにできるようにする。</li> <li>・一人ひとりの役割が大きくなるよう、班員数は4人程度にする。司会者を決め、発言と発言を結びつけ、まとめていくよう指導する。</li> <li>・単純な分類作業に終わらないように、「おもしろいとはそれまでつながっていなかったものがつながることだ、気づきの喜びだ。」といった説明をしてから分類作業に当たらせる。</li> </ul>
第三次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短文で綴る大切さを知る。(5分)</li> <li>・前次の作業を参考に、下書きを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例を挙げて十分に分からせておく。</li> <li>・清書を書くときに、他者の意見を</li> </ul>

	書く。(25分)  ・下書きを班員に見せ、アドバイスをもらう。(20分)	積極的に取り入れることができるよう、下書きは半分の字数で書かせる。  ・「詳しく書くべき箇所」、「予想される反論」、「冒頭文の工夫」についてアドバイスをするように指導する。
第四次 (課題)	・清書を書く。	・第二・三次での作業を取り入れるよう指導する。

### 3 参考文献

- \* 1…樋口裕一『わずかなトレーニングで格段に上達する文章力の鍛え方』ソーテック社
- \* 2…高橋フミアキ『頭がいい人の1日10分文章術』コスモトゥーワン
- \* 3…斉藤孝『原稿用紙10枚を書く力』大和書房

### 4 解説

「様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合っ批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。」を指導するに当たって、

- ①他者と交流し自分だけでは出なかった発想を得る。
- ②文章化するに当たって、内容面で他者のアドバイスを十分に取り入れる。
- ③文章化するに当たって、表現面で他者のアドバイスを十分に取り入れる。

という3つの目標を生徒に示した。

#### ○具体的展開

まず、①は展開の第二次で実践した。テーマは「マナー」で、このとき学校に募集があったコンクールに合わせたものである。取り組む前には、個性的なもの見方や考え方、発想の豊かさや観察の鋭さに欠ける文章が、おもしろみに欠けるということ、\*2に挙がっていた例を使って説明した。

生徒の感想としては、

- ・一人で考えたときより考えが多く出て考えを思いつきやすかった。気付くことが多かった。
- ・人の案から連想して、自分の意見を出すことができた。個人の意見は偏っていることがわかった。
- ・いろいろな発想が聞けてよかった、自分の意見がいろんな方向から点検できるようになった。
- ・自分が思いもしないことが出てきたとき、おもしろいなと感じた。
- ・みんなで出し合うのはおもしろく、思考の幅が広がった。

といったものが見られた。出たことばを分類する前には、\*3を参考に、文章の価値について説明をした。つながらないものをつなげることで複雑さが生じ、自ずとオリ

ジナリティが出て新しさのある価値のある文章になる、といった説明である。しかし、班で話し合うという環境では、個性を生かし斬新なつなぎ方を考えにくかったようである。無難な分類に終わる班が多く、課題が残った。つながらないものをつなげる模範演技を見せておくとか、個人で考えさせる時間をとる、といったことを今後実践していきたい。

次に、②であるがこれは下書段階の交流で行った。下書は、時間の有効利用のため、また、清書を書く際に他者の意見を積極的に取り入れるように、清書の半分の400字で書かせてある。下書きを書かせる前には、\*2に挙がっていた例を使い、短文で書くことを指示した。

交流を行うにあたっては、どこを詳しく書くとおもしろくなりそうか、どのような反論が予想されるか、について特にアドバイスするよう指導した。生徒の感想には、

- ・深めたらよさそうな箇所を教えてもらった。
- ・どの具体例をもう少し詳しくしたら良いかをアドバイスしてもらえた。
- ・書いた例を、おもしろいからもっと詳しくと言ってもらえ、下書より広げて書いた。
- ・反論をもらったことで、その対策ができた。

といった感想が見られた。

そして③であるが、これも下書の交流で行った。生徒はこれまで、主語と述語の照応や修飾語と被修飾語の適切な関係、表現意図の明確な文末表現について学んでいる。それを受けて本単元では、文体の工夫、表現技法を使った工夫、構成や展開の工夫のうち、表現技法の工夫を取り上げることとした。

特に、冒頭文が魅力的であることの重要性を説明し、冒頭文に工夫をすることを、本単元での課題とした。冒頭文の工夫を取り上げたのは、短時間で目標を理解でき、ある程度今持っている感性でアドバイスすることが可能だと考えたからである。

最初に、比喩、反復、倒置、省略、対句などの表現技法を紹介した。次に、\*3より、有効な冒頭文として、「動きがある内容ではじめること」、「台詞ではじめること」、「擬音ではじめること」、「反語ではじめること」といったテクニックを口頭で簡単に紹介した。

そして、アドバイスをするときには、そういった技法を使って書いた冒頭文が、読者を惹きつけるという目的のために効果を発揮しているか、検討するよう促した。また、書き手の個性を発揮した冒頭文を作ることにも挑戦するようにも指導した。そして、前項と同じく、目的のために効果を発揮しているかを検討するよう促した。

成果としては、冒頭の書き方のアドバイスが参考になった、という感想が多数見られた。生徒の出したアドバイスを見てみると、

- ・冒頭文を直接話法にしてはどうか。
- ・直接話法で、しかも疑問形で書き、暗に読者に問いかける形にしてはどうか。
- ・冒頭に体験談のクライマックスを持ってきてはどうか。
- ・冒頭の体験談を詳しくに描写し、臨場感をもたせてはどうか
- ・珍しい例を挙げて、斬新さで惹きつけてはどうか。

と、\*3からとったアドバイスと重複したものを中心に、たくさんアドバイスが挙がっていた。冒頭文を具体的に提案する形でアドバイスし合う班もあり、活動しやすい間であったと考える。

清書を書く段階では、これまでの活動によって得た成果を、清書や、その推敲に生かすよう指示した。他者の書いた文章である下書きを読み、アドバイスを書く。もらったアドバイスを読み検討し清書に生かす。これらの作業は「PISA調査の結果を踏まえた指導の改善」2 (I)ウ(ウ)「読んだことと関連づけて自分の感じたことや考えたことを簡潔にわかりやすく表現する能力」の育成の機会の一つとなったと考える。

#### ○課題

他者の意見を得ることの意義については、十分に説明し取組に入った。しかし、どうしても話し合いが滞る班があった。自分の思ったことをなかなか言えない生徒、自分が書いたものを人に見せることを嫌がる生徒が集まった班である。「下書きをまわしアドバイスをもらうとき、誰の下書きかわからない形にするべき。」という意見を書いた生徒もいた。「ネットで予め調べて、あたりを付けてから授業をしたかった。」という意見にも、一定自信がないと自分の意見を言えないという思いが表れている。

こういった生徒にも十分に活動に参加させる手立てはないのか。今回は、毎回班を変えるようにした。これによって、話し合いが進まない班に入ったまま最初から最後まで行く生徒がでることは避けられた。しかしそれぞれの個性へのフォローとなったとはいえない。

否定されると恐れるものではなく、建設的に検討されるものであるという雰囲気、継続的な指導の中で育てる、ということが課題として残った。アンケートの中に「この表現はいいというアドバイスがあって、気持ちよく表現できた。」という感想があった。このような思いがあることを手がかりに、建設的な意見交換を目指し研究を続けたい。

意見交流を十分にできていた班の生徒の中にも「書いている内に自分の世界に入ってしまう、もらった意見を参考にできなかった。」というものが見られた。他者の意見を得ることの意義がわかっているにもかかわらず、アドバイスの質によっては、自分の意見を優先させてしまうことを非難することはできないだろう。ここにも課題が見られる。

#### ○成果

課題は多くあるが、全体としては、互いに高め合えたと思う生徒が多かったようである。既に挙げた感想以外にも、

- ・否定的なアドバイスがもう一度考え直すのに役立った。
- ・同じ言葉でも、違うとらえ方をしている人がいて、参考になった。
- ・どこに注目して読まれたか、自分がどこを注目してもらいたかが分かった。

といった、成果を感じる感想が見られた。

今回の学習の中でやってみたかったこととして、「アンケートをとり、その結果を文章に盛り込みたい。」と書いた生徒が数名あった。他者の意見というものを意識した結果、そのような発想に至ったのではないかと考える。他者との、発想・意見の交流ということ、また違う形で、様々な対象に実践していきたい。